

調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	74	71
卸売業	27	24
小売業	105	103
飲食業	31	28
サービス業	62	62
運輸業	13	12
建設業	64	63
不動産業	23	23
合計	399	386

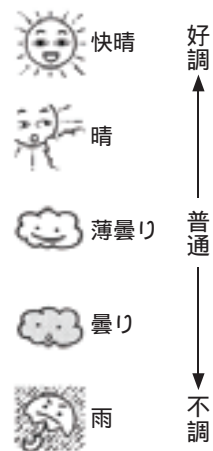
調査時期 3月上旬
 調査内容 平成22年1月～3月の景況
 平成22年4月～6月の見通し
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査
 調査対象 当金庫の取引先
 回答数 386先(回答率96.74%)
 (回収不能 13先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。
 次回調査(6月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

景況天気図

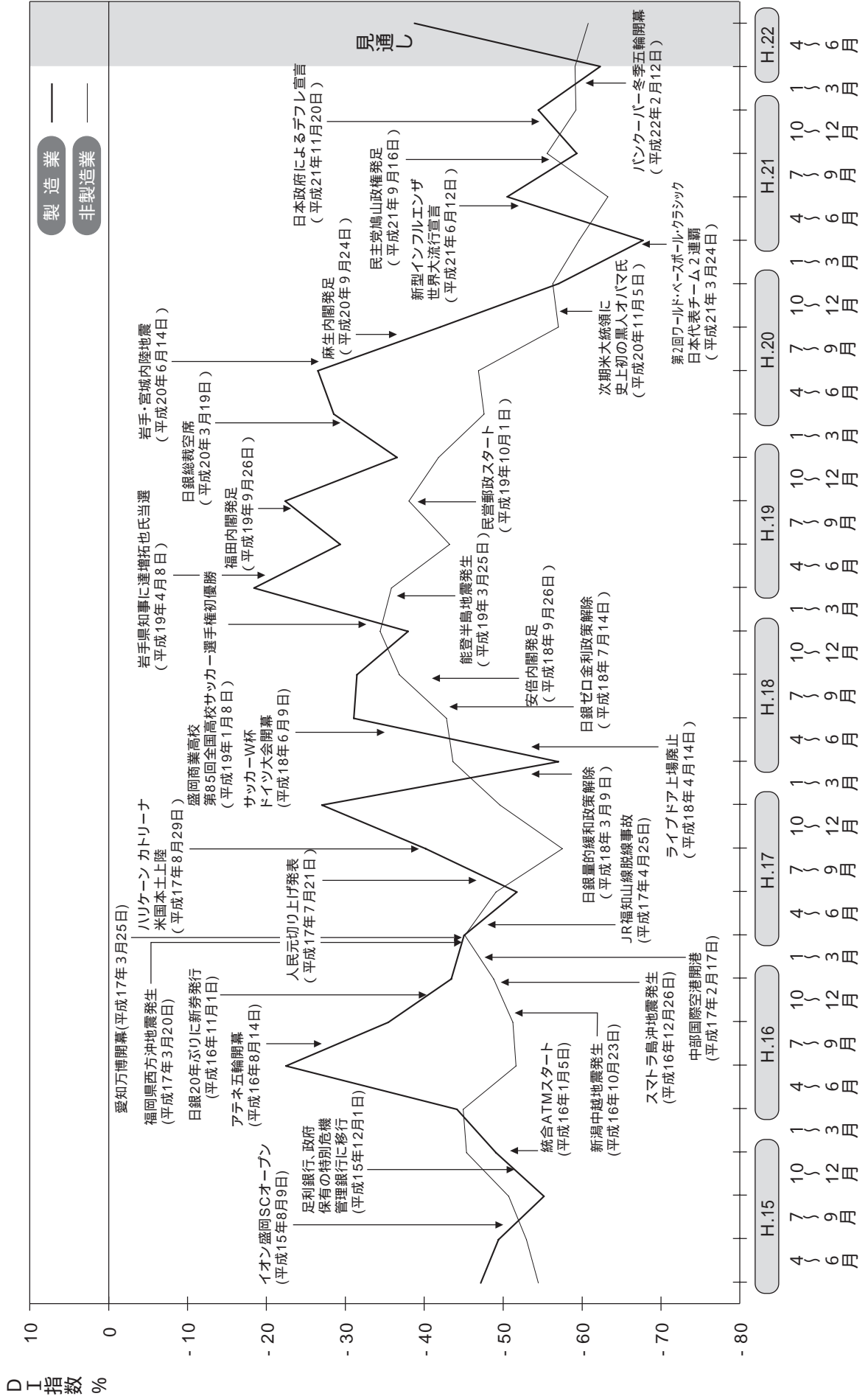
(景況調査の概況)

	平成21年10～12月期	平成22年1～3月期	平成22年4～6月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

製造業と非製造業の業況判断D I (季節調整済)



景況総合判断指数(DI)

平成22年 1～3月

前期 *DI	当期(平成21年10月～12月期に比べて)				景況	見通し(平成22年4月～6月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-59	7	24	69	-60	業況	6	30	64	-57
-39	15	23	62	-38	売上高	18	28	54	-35
-42	12	25	63	-44	収益	16	28	56	-40
-26	8	61	31	-21	販売請負価格	5	63	32	-28
2	17	68	15	6	材料仕入価格	14	70	16	-2
-2	14	73	13	1	在庫	14	72	14	0
-40	4	50	46	-39	資金繰り	5	51	44	-41
-19	7	68	25	-17	残業時間	6	68	26	-18
-1	14	72	14	1	人手	16	71	13	-2
-14	5	75	20	-15	設備の状況	6	74	20	-13

*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成21年10～12月期		平成22年1～3月期		平成22年4～6月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-59	-58	-60	-62	-57	—
製造業	-55	-59	-63	-55	-40	—
卸売業	-73	-76	-84	-76	-70	—
小売業	-63	-59	-60	-59	-56	—
飲食業	-70	-56	-72	-66	-71	—
サービス業	-51	-43	-42	-61	-54	—
運輸業	-47	-52	-23	-72	-40	—
建設業	-53	-63	-63	-69	-68	—
不動産業	-65	-58	-72	-54	-76	—

*DIは季節調整済

*それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

景況

景況は若干悪化傾向を強める

今期(平成22年1月～3月期)の景況は、前期での予想のとおり、全業種総体では「若干悪化傾向を強める」結果となりました。小売業、サービス業、運輸業が前期悪化傾向を強めるから改善となり、製造業は前期改善から悪化傾向を強め、その他の業種では前期に続き悪化傾向を強めました。小幅ながら低迷が続いています。

業況判断指数(季節調整済DI)は、全業種で-60と前期-59から1ポイントわずかながら悪化傾向を強めました。製造業は前期-55から-63と8ポイント下降し悪化傾向を強めました。非製造業は-59と横ばいで推移しました。

売上額は、-38と前期に比べ1ポイント上昇し、わずかに減少傾向を弱めました。

収益は、-44と前期に比べ2ポイント下降し、減少傾向を強めました。

価格面は、販売価格は-21と前期に比べ5ポイント上昇し、仕入価格は6と前期に比べ4ポイント上昇しました。

資金繰りは、-39と前期に比べ1ポイント上昇し、わずかながら窮屈感を弱めました。

業種別の業況は、小売業は-60と前期に比べ3ポイント、サービス業は-42と前期に比べ9ポイント、運輸業は-23と前期に比べ24ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。一方、製造業は63と8ポイント、卸売業は-84と11ポイント、飲食業は-72と2ポイント、建設業は-63と10ポイント、不動産業は-72と7ポイント悪化傾向を強めました。

経営上の問題点は、「売上の停滞・減少」が70%と前期に比べ2ポイント下降しました。「同業者間の競争の激化」は43%と前期に比べ3ポイント上昇しました。「利幅の縮小」は34%とそれぞれ前期に比べ3ポイント下降しました。

来期の見通し

景況は悪化傾向を弱め改善

来期(平成22年4月～6月)の景況は、全業種総体ではいくぶん改善されるとみえています。しかし、引き続き力強さを欠く停滞感の強い状態での動きになりそうです。

業況判断指数は、-57と今期に比べ3ポイント上昇し、悪化傾向を弱めそうです。

売上額は、-35と今期に比べ3ポイント、**収益**は-40と今期に比べ4ポイント上昇し、減少傾向を弱めるとみえています。

価格面では、販売価格は-28と今期に比べ7ポイント下降し、仕入価格は-2と今期に比べ8ポイント下降するとみえています。

資金繰りは-41と今期に比べ2ポイント下降し、悪化傾向が強まり、窮屈感は若干強まりそうです。

業種別の業況判断は、小売業が今期に続き4ポイント悪化傾向を弱め、製造業は23ポイント、卸売業14ポイント、飲食業はわずかながら1ポイント今期悪化傾向を強めるから悪化傾向を弱めるとみえています。一方、サービス業は12ポイント、運輸業17ポイ

ント今期改善から悪化傾向を強めるとみえています。建設業は5ポイント、不動産業4ポイント引続き悪化傾向が強まりそうです。

雇用の動き

人手は、今期1と前期に比べ2ポイント上昇し若干過剰に転じましたが、来期は-2と3ポイント下降し、再び不足に転じるとみえています。

残業時間は、今期-17と2ポイント上昇しましたが、来期は-18とわずかながら1ポイント再び下降するとみえています。

在庫、設備投資の動き

在庫は、今期1と3ポイント上昇し、わずかながら増加に転じました。来期は適正となるとみえています。

設備の状況は、今期-15と1ポイント不足感を強めました。来期は-13と2ポイント不足感を弱めるとみえています。設備投資を実施した先は、今期、全業種総体で車両を中心に17%と1ポイントわずかながら増加しました。来期は機械設備の新・増設を中心に15%の先が実施予定とし、今期に比べ2ポイント減少するとみえています。業種別では、今期、卸売業、小売業、飲食業、サービス業、建設業で増加となりましたが、その他の業種では減少となりました。来期は小売業が増加し、運輸業が横ばいで推移するとみえておりますが、その他の業種では減少するとみえています。

借入金の状況については、今期、借入れ実施割合が増加している業種は、小売業、運輸業、建設業のみで、全業種総体では29%の先が借入を実施していますが、前期に比べ2ポイント減少しました。来期は、卸売業と不動産業で実施割合が増加するとみえています。全業種総体では5ポイント減少し、24%の実施となりそうです。

借入れの難易度は、「難しい」が23%と前期に比べ1ポイント減少しました。

景況の推移

* 前期比：DI・季節調整済

